2132
86

自序

三絃羅淫樂ゝ魅狂國
ゝ人。列諸雅器酒肴ゝ
樂ゝ長醉鄉ゝ家自侈
性命ヲ並ルスハ男女二者。所謂

13 特
2132
86

齋藤文庫

曹參盜跡し飯白米必從
之所用異矣。故大墨溢趙
一日不重復雖之志勝
趙俠。亡時忘搜宝級
也。因此觀之。臣滑稽多
心〻之人。不時移波。
其義云雜語。能通人情
皇不勸善懲惡。
哉。殆然是陳嘗淳之
糟粕。何免角作

世ニ行ハレ。是邯鄲ノ菜
葉ニ蔓ニ隠レ来リ滴ル
醒サ者ノ世書ニ影ニ書ル
妓ニ三ノ歌為ニ歳首ニ剌語
ヒカリ

成蹊書

蘭齋主人影

第一　未発通の知うぶりハ仁
第二　おりゝ成たるとをれハいつゝ義
第三　義理と情のふたつふん禮
第四　離岐らじ乱うく智
第五　身持をしてたゝせしハ信

青楼娯言解

蘭奢亭主人作

夫富士大郎の文句ハ曰武州入間郡金龍山ハ乾ハあり北をうけて一廓あり唐の阿房ハ勝三千人の美女をあつめし世界ハ春ハ花秋ハ紅葉ハ冬ハ竜俄二夏の月四季折〻の戯ハ毎日毎夜八朔の雪ハ簾をかゝげて見返〻の鐘ハ枕とゝぶて〻ゆゝしも清女がこゝろ成義ひハ後の汚名を捨てこいて二ツ〻客よあつまる繻子毎夕ゆゝ成品ひ口舌

が園よ玉屋うけるまで助いるりに白粉のあと
よちなで和玉屋よ唐物のあれば見事堀よ高
蜀黍の焼立白ひ香ひ一元坂よ杉無の横と
うれば熟乃めく生醉門をもう秋葉狐竜の例
ねひとけの松の芝ものもう早鳴りも侍小田原や
の前まで彼も七軒の松陰とそそん竹の林ともか
ほれ角町よりう殿引客も猛さまあ沢蒲生う
河岸の女郎地色よりもかりく門弁の伏見

町ともに一夜ぎりの客成送り娼女めけうもいるべ
し兎の芝影てんつるてんみどりけまてもてれん
茶屋ふ三味せんの音あ一番ふ稽舞屋
ふいんぶ亮の字屋の幕乃内ふるうよけれ篇
きりに抜ぬれもこふつまきるるうにして嘉屋の笛
むりりあのかりぶ原をれを杉茶屋乃
門ぶふ弁むりの蒲鉾竜あり千代ハ千代
千客・萬来乃あびるひなり

恵猶乃車迫り自家ゑ
柳長女

○第一

こゝに表徳と帆船といふる高岩あり年の齢ほ千とうち
和して玄蒙付ハ古渡唐様のこゝろ傷羽織おすの信
の小袖あい着下ゝいづまて結城の小無地の羽織を七ツ
中橋の帯ほそ一筋の市松の小紋指鞘い結ひ金刀豆小
庵帯どあ人金のしゝ五て伊勢のひれてと帆のあとを付さしの
吳絞九庵の雪踏ごんどこうとうあるいとうはいぶ月も
大座のさ人ゝ人ゝるいゝ山里人ゝでよ名由うれし
が今ハ和くのこれしゝのみうれど法るのふり河の一つ
やゝ高ゝてこげ一風あるく猛ゝ山て大ふう
のまふうまゝ玄井正徳ゝて帆船が始ゝ山ハ勇ゝ山ゝ
ゝも付てゝるき方新ハ時ゝ山ゝのうひ摩訶医去

ゝり帆船が起ゝたる風波の山神祇を七ゝふ
の八時ゝ北祇風吳代雲繁まで おゝぶれてゝうだゝふど
とゝりゝてゝゝゝり年ゝゝゝゝゝ十余なれども三ぜん
くゝゝゝゝゝゝのあゝゝゝゝゝ帆船ハ人る巴屋の舎
庵より代を人一二人迷て紀ゝ人ゝゝる乃人ねけゝ
けるぶむゝゝゝ般若船年のゝゝ三ゝゝそひゝゝ大ゝ
ゝゝゝ名ゝゝゝゝゝゝ

中の所のタ[illegible]きで。ひしろ天口こまぐるで。孫。門
ろへ 繁 それいありがとう。ぜひ物も芝居の大おさうと
ごさふおつれいエ 帆 おーやうどうさ 手伝い少ぐんとしてあるうち大
正 イヤ 繁 ぶさんこれいポイトおんなる 繁 イヤ 正 いち別の業
トおーしうたむ ありがとう 切りとれの山せ男 ん ぶいさぐめ高尾いとう簡
ぐらう孫 正 切海さ 繁 妙 こんおん正
さんぐつとうきぐれの女房し出やせう。山のおぐうも
久〜〜えうの門ぐ孫 正 イヤ もしあ多として。おんあり

おぐうもひやうさんぐと。第[illegible]れるか〜。ようとぐんす
ぐれ 繁 ようてこもれ孫。でくぶぐてこさの。ぜきれ
ふ 正 ようさ。おぐう記ようきさんくうう〜びさ。 繁 イヤ
きく〜妙〜ぐうきとおんーどの姫とやつく孫。こちら
ぐまふうけてうちぐ大ワ〜ひぐトこうう〜ぐ姫おぐんこうう生
さちや〜 繁 モシ ぞんる山名れ。おやくさんもぐぞんじれ
いかうの外ようさんが行ようへ出ようくして。業所の中
ち屋の二階ようくよびうせくこうあぐりやーさ 帆

ハア 牛子はまやさく

【楚】ハイさく〜〜〜

みでんぬぐろ〳〵見て孫。そこらへ 繁 こうらやめ
ひわろて。新造の呂入でぐ俗〳〵ぐ。ちとやとのま
しで。欲人とありぐこれいとおくひのわ。イヤあのも
ものぐろぎふなり俗〳〵。ぺの中でも考造で系物と
まんとありぐねとそこう 正 かんにおろうたとざ
しれうぐあくといてぐ。ちぐころやもひく
ちん屋うぐもはまあやあろぐぴきゆりのもぐぐ
さうさ 繁 花白あり屋〳〵さ。そこそまさ義有白あ

さうひゆ。さうみし藤司ひど面白人やりもあ人
ものさ。ちちち

女房 ラヤ 帋松さんよりいんしんがあいまして。只今四時成
ヤてあるうまいと 正 ごうりでおあんのこゝら場でく
ちあつこが出やうと 女 こゝさんがあんまことだろうう。先
ほきげんようこのようト 嬢 ふるもあるもやおちやとゝ
てきや それはあなたこそ盃てしまとうたがらかあるひ
はあるまいてなまとようてちんとこゝらだそれこうはく
ゝ 横ふあるもむく 嬢 ふるあいかゝてゝ行ぐ口のりさ田ゆ（やりうまと
して 平のはこ 源松 トこゝ使る 西徒ハいろあなりどゝれもんぐろうのこゝにろ
ゝる 横の 座 ふるゝいこびいしやいろ〳〵こゝあれをひろい伽りやう
びんがの 嬢 蹴 ようつゝうのちうもあちうんぐゝ行のさゝだ式西いろ〳〵 紙
あれどもるゝたけゝこび畧こゝやあつて帋せんのあひゝこ 尾上 ちぐゝたゝやゝ
ゝふるゝこゝねのゝうこの傷ゝ行ハいざちゝぐゝつゝのトまゝう通れちゝく

る尾張川よりこゝぐる花の餞。ゝ山の眉 御の髪のうるりゝ〳〵 濃の
武部のいゝ人ゝ仕ゝ仕ゝ仕ゝの文字もゝゝう今ハ髪る情のゝれゝ。
ゝゝこけゝゝるもゝびゝるゝか。つゝ半ゝのゝ百ゝう恠ゝゝゝいゝ
内仕のゝ行ゝゝゝ

コウてゝ人よ〻〻まの代やろう（あんろ〻〻の紙入のあつぐ〻〻まつ山やたゝのりひら）
つゝるとゝろ
ぶゝ〻〻る　虎　ラヤ　ワゝ〻〻ゝ　ゝ　ゝ　

かいてくれやすくちゝ
百足いとさまざまひ
こりやアめつれけんとやう 深 ヤイこれいとあるこうにんぐるま
春の秋の月は字はいやん
十二 こしは滑らかに字さと好よ金を 深 ヲヤ滑し
よくこしてん。字のかくしてんもの紙ひせんもの紙
にこりやアあまんぐるまのおがつらいつまざんを 繋
ウそれ〳〵滑よてくれ。板が男滅してくれや

ひ 深 ヨヤこりやアめつしのるどやアさんせんく 繋 さ
しぶのぶが板木やく。いつけさはゆ板金もろく
ちやせんく〳〵トくのもりやすれば毛をこれ〳〵ちくしのら
つさ紙やちの。内よりぶらりくけうるや。
うりやせん。りく須田まうも赤ろ毒く〳〵も。らい云
の彩板のさんく〳〵ぶが。鬼がきいく〳〵勇くをどぶ彩
深 うんの作をうんと 繋 まの作さ 深 まくしかか
んのうざんちく 繋 まくしいるも紙のこくさ 深

そんぼうしゃ。まぎらしぬけうんうんとうん

【繁】毎年ニこどんでぐーやんとうふをはくらいつげぐ

せーげそれでぐ

【浮】そうやうごきやうかーごんとうれん【繁】

こうはぐ移ぐ中うーゑ屋ぐ来て。ちやれ中ぬけうて

くきろーいろーうーうきくせやて。毎年このま

れるぐ今ばどやー。ぬれの頭中さ。ーや面白くうーさ

ーうぐ移ぐ新造ニ百の面ーーーーーて。ぐーゑや

いーゑやぐん。ぐーいろーーーーかせん。【繁】家ぐ

遣入

ぐーうんでいるうーーさーーーーぬかーーーん出ーーーーかも

んざーー。せひいーれやを【浮】それでもおぐーーー

ゑやー。ーーーーんちゑう【繁】近所の者の寄ーゑや

茶の湯の友達のワひーーーーーーーーーーーー。教訓のーーー

一どんかーーーう第中ーーーーーーーーーーー

ふうひこ式かくのも。きゆれ年のけん会と
うしのとしのぶ。ちゝ出ぜんひれう
やゝちちとゝやゝ（ちゃうちんの糸と下ロのんで）
ヱへと屠紳屋ひやうれ登湾小回ヱへとまんひやうれ新とそ
鯨を冷ひ酒をのゝ貨と曲くこれを新
ん乗ゝ長年小あゝん。編湾ゝ
ぞもこう屋てうへんうちんのこれて。友
達と渡ふこう前ん（例刑）ぜんゝ渡ちゝか

ぞわゝふ素見のやゝれ邪くゝ。ゝんのゝ
まの新ゝ。ふのゝまゝゝ午有大ゝて廊に
志ゝ。内ハ新跡ゝ火車ゝりてゝらく
の。通用も。ろんゝ。ゝゝ。ゝゝゝんと
いゝれ。ゝ書十年れ日ゝ成きうゝんゝ
ゝゝ。むゝゝゝのゝるゝゝりゝ。ゝ北窓ゝ
流腐と逆ゝはゝゝゝゝゝ風ゝゝゝん満奮
がゝれ怯ゝものん宣恐れをゝんや

くのこころくまでめで。面白くわくさて世説
の倍をめ〳〵いれやくさぶらくさすぐるさんん
もらけくされをよみやをさうにこまへくされてこの
くくろくさ赤見を合のロるロさ
ユくんぞふいるくんざーゆんんもくさわく
でくくまれふくくあるのとくや面らわれくぞ
ぬりぞくれ角くへ。たうねぐうくらくあくさ
ゆくを。ものぐ次合ァがくうくさみ。うふくいくそ

志のぞやくうぐ人城。六七本くくを巻ゑ人そ
つるたくくさ酒見巻の女慶ゑ。増場の後の
縁〳〵くくぐ。ニくがんうくくんうんざ。まん中
のくくらくさぐりつけくられくやくくらく身でわる
新遠い左合せくくを法の雪明くくくくを入ぐを
あくくゆの志ゆぐゆごてくくそうぐ浪の義うんざ
〳〵あざァくうがとおりぐでくく猛綿のりんど
くくゆ楽でおくうを巻くやうぐ。あとのくく

海の幸(額)やかうしん(運上)とよこげ。
こけんどやくにけりとられていく面ぶこち
らの中しまのそかもようひつくでれさ
ぜ。ゆくうるこやがでくじんの弦ゆさこぶい
松のうんぞんこいく鼻ぶ。ちうたくきさ
あうそつぶこれうゆびのこうくいて
ぶつけうのつけ馬こいやうトさハかふ
こりくらあんまりやさいこうさトありうくもうへうぶ
ぶ。ゆくうのあびのうさ

とろうでしたり池でしたりしていれど
怖ぶたぶつれぶうんぶこうあうあり
トせうことうふらへ 髮 まとこ三まの あけく 浮 ぬりうぶんを
たこれもこうやアかさかうくとうくこと
世界(せかい)ハ大(おほき)ク世(せ)の中(うちぎ)ハ。客(きやく)ハ大坂(おほさか)りのゆく
名(なを)ハ(ぶ)ハ大(おほ)ぶ。ひとも(二今目)うりげんや
さいこ十ぶへハ大さこぎ。うりゆもおこうぶ。おこら
おむめ。おこけ。ぶひこ声(こく)をあこうをひうこ
チ、チンチ(れ)こうこ(れ)こ(れ)こ(れ)こ

ざいどをあて拵へる。きんりゝ四かんも
酒やどうれしひとのハなん。ダイ〳〵ノダイ隙ざ
しんでこゝをやどもとゝ。されて盃さやもつ注
ね。幸若〳〵の唄ゝ。もとみて
こゝらに来春ハ流りおくれるぶらうこんろもゝ
ぶらこひろこぬきのあけさこゝの
口の大屋神舎ハ神つゝふふゝれゆへ。今青
ハ義ようゝぶ義をらゝもゝ吉花

神願もとゝ。ぶ酒ぶ。ぱ宿清蓋よ毒つ行一口
新ゝゝゝゝれを毒ゝゝれど。浮原祇園羽糸
渡ゝゝ幸町坂町の。通人ゆへ。式廓のあゝびよ
ぶつゝび。武金でつゝ紙ゝんゝゝゆへ。おいつ
ん大ふ風知。菓屋も心づひよいまなし
初酒ゝよ不ぶゝけゝ。ふれゝびゝしのらぷひ
菓城ゝゝぶ意ふゝる思入の言傍く
さゝゝゝゝ。おゝゝゝんゝちゝゝ固らせんゝれ

ひ角(まるだん)大丸(まるだん)に雲(ひさ)こぐしとふでの山(やま)
ひ〳〵つ〳〵。おろ(うえ)に海(うみ)をかき船(ふね)も浮(うか)べ。こんぶ(井)
よ出(で)る砂糖(さとう)の水(みず)ゆ。おきみごだうきき
ぬ入(いる)。かくよちろまんげとな。うゆ〳〵
もつていど。客(きゃく)の前(まえ)おせ(サア)おしんかん〳〵と
いつもれば名(な)ゆ〳〵さまちがめ大(おお)こ子(こ)てとる
ものゝ言(いう)ぬゆくこれ(これ)を大(おお)へきる(切)墨(すみ)沢(たく)
で(で)いも。ふれ(ふれ)をうれ(うれ)紅(くれない)ゆ〳〵ぐいに

見(みる)と合(あう)さいる。おあらんがごらんあん〳〵と
いろ〳〵。これ(これ)おろん(ウゆ)かめのこぐひうきく〳〵きこうる砂
糖をふ〳〵ゆせ。菓(くわし)せんのこそ(そ)ぐんこらく〳〵ゆ
わこる。麦こ子(こ)ふりかれ(れ)ごろり〳〵ゆ子
ふりろこ〳〵ろ(ろ)ごげ落(おち)ぬ(ぬ)ちろれんげこそ
これ〳〵客人(きゃくじん)出(で)こ(こ)ら(ら)く
ま西こうと出(で)ゆ。これ(れ)〳〵ぐんであ〳〵しい
まゆ(ゆ)ま(ま)と(と)ま(ま)ゆ(ゆ)ん(ん)と(と)ま(ま)ゆ(ゆ)ん(ん)と(と)ま(ま)ゆ(ゆ)ん(ん

ごもっとうでざんす。ト
かつこみけり。
[繁]これ〳〵そこの男
よあのあの〳〵いてまつぺまぐさやせんあんでも世
界いこれからかめて。ぬし式あてかきやせう。実
しゆ金整のこぐさ。ぜんさ
叶りだ。きき入てあやせう名さあんこいひ
ト
[深]ヨヤワさうどもいそんかりのさざ
んなんうやちさんろそもられもちてくれて
ざあんなのこでおれさものトまされやかぐもいろけれやかぐもいろけれ
[繁]ぜんと

ト
[忙]これいでもちよトわれ
きんやこのこの式のこそきこおこんあんこれら
これいちがりでもの
のきれをうんざも
[正]うんざつけか
[深]そかこれあん
しれか
[正]ここまきれくぐ。あこやアもあくみは
わこいよ
[新]さんのハのそれぐこんこんちこ
[正]アこんこ酒いもろふこひやつとこのこくこてこれ
ろこ。このむが。れのぐこだこ神こぐもつてこ

わ人ハふ[illegible]　そうまやァ[illegible]りてきておやんかうんし
くひとめくいしふこうまんこのぞんこそよ　咲　そん京
りんどやあぞんせん。ゆくくしい正さんぞョウ　正　そ
んあくかまんらくいめこやろうとぶとてとまのひ
そぶつろうくく
咲　ちくくこうこうわくどよゥまくさまめうしんちぞんのあ
いぞんこのまくくぶかぞんこそそ
震の　そうぞおぞくれぞやこうざんこうあのくこうとち
つくおくんかんし　正　ぞんちかこんくこ　震　さうむ
がかくくちんかせん　正　とれあやァゆくくこうぶ

あうぶね　震　あうかくこうぶんと　正　あうがつうぶろく
震　ヤ　ゆくこうやァかんのむくこのむくこのどやあ
さんせんこん　正　ゆうくくもろく。さうのむくやあうがく
るこうこん　震　ちやまこどくくこどやァぶんこうんゆくくしい
ちくひくくのこんぞこう内仲でこまゆうかどの性のひゆこのこちゆくくと
ゆうくくもくいここの名とワぶ名をこうゆいてゆこどこくくつうんくこの名八こそ
こくくよ
京ぞこも　正さんこぶこぶでァノこれへぞつぞァノこそし
いつ字くくこそくてぃどつぞ　ちいくこうこうこそて　文のゆこ成ひこく
り　級のやこうふこんこくおくこんこんくくぃ。ゆこうぺゆよ　正　フウ

かのぐろ 立 ぐまろくおいぐ ちんしよ 正 どれ〜
そで
まろ〜 ぶろり 好紙じやアまろれく 立 書紙ちかしたあく
ちくつまひーた 正 ちし〜 トちぐ〜ちろ紙をそんてくれちり
かるる立ぐもうしろうこのそく
れさうんぐれいれく 立 ちうし〜 出ておくんぶん
し 正 ヲマサト のちとぬそ ぐちそく 立 ヲやとんぐりのをおうさな
んちよ。ちそやアモウいや。ゆるう〜旦れさんよた
のんぐ。やう〜のこれ〜ぐでう〜川てまちうひ〜さ
ちの紙ゆ〜ぐ〜ぐ〜ぐんかりのをかんく トちそ〜
ちうこぐ〜ぐ

おくれく正徒ぐ〜ぐ トぶろ はける 正 ぐんてくちうちよ紙
ちうちをあちくが ゆちくされ ぐれねぐ。くれ ゆちてあげ
やーやう 立 イ〜ユ いうひ ちんまちかの ちんぐう 赤立 正 さんちろ
とちちのーとちのん〜 正 ぐく ぬぐなーがありぐ 孫の赤管の紙
梯の ソリヤアちぐんかうもく〜 ぬくぐんきく 正 化物 ぐなの
ぐなーさ 不山 ヲヤ 化物ぐなちちとくぐんきちく
やんぷりゆ〜ちちのーちちんか 正 ちんゆ〜ぐ〜ぐけあ
ぬ〜のゆ〜ぐふ〜れ〜ふ〜ちなーやう 梯 おりちうぐん

せうぞくやおとかしゝんゝ 正 去年の盆の十六日
のこゝぶぞくゝが法ゐよとうつを稲へ。箕の稲どう
とゝまろかゝふとぞらんこうばごぜへとぞこでゝれゝ
ごゝんがするかゝそんとこのぜいこゝろるとあわ
れむろうれうゝうゝもろくゝひゝろうゝ幽霊
がこゝヒゥいと 下ゝ そこゝゝ 立 ゝ山さんゝとゝちち
へおうんすんゝさゝがるふさんを 下 る 正 て
もさゝうゝこゝゝゝゝいかせへかゝそうゝもるゝゝ

れろうべがまるこのうゝ人拝壱とゝて。ゝゝゝゝゝ日
ざゝゝ条紙ゝゝゝゝゝゝく。ゝがゝゝや猫を二ゝゝ
べまゝえ七本墳墓とゝぶゝう。ゝへゝゝゝ紙ぶゝち
げゝく。ゝれのゝゝゝ紙のゝゝを下ゝ方ゝてゝ
ちやゝ。ゝふゝゝゝ狸や狐や山猫が白ゝのてゝち
んゝゝゝゝ。藝者が紙の対出やゝゝいゝ男でゝゝやゝ
すゝいゝて出るのゝゝゝゝ 咲 ゝゝ 狐や猫が口ゝゝく
いすゝ 外 ゝゝぶゝゝゝゝきゝやよ 正 ゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぎのおりひつきとてきまふかさそなふろ
ておどりてくるのをそそややんぐきひさ
木の化ぐさこそそ　ら貝の大きか
場主がよんくとしろ未そそふんぐぐ
とりとぷんらへろぐくぷりんさそんこ
しろ其そそ。ふろもちろぐらかくん
らくおりうそ。見ぐとろりえるとぷ乃
ハ河ぐとりぷぐとぷぐ人も金色がゆるぐろてそ

こふ川童のおどりや。かふどめるかくこれまん何
河ぐくぐ。あ山陸くがらいあやアだるくく。行河
くくろくぷもくんさくふ見をあくんてひろむ
ろぐんぐくくさとふ八御ぐ山ぐくれぐも見い行ろく　亦
ぐ山陸が教ぐろくそて
教くれくくぐ人ちんくくふいくくれぎろだく　正　そく
ちるくぐんぐくぐ海ぐ。くくかるくく墓場の石塔ぐさ
つくくれるとぷんぐる。くろくく火の玉がフウトあんえと　右
くろもくくぐ山陸八御ぐろくあろて　ろけそ
つけ本のもくちろで物をや

正　アマ

揺そ様おうんしーん人をあんはりおうーみん
ーさどらぐどぐんさァ 正 アモウロどすくわんくさァ
酒よもうはひでくん様へ西どもやうにのむおどらされる
オのどうがしとやて　きんどうくやーがりんぐづりの
もやんの男くいも　麁 正さんおさふ 正 これいありごの
松ぐうんぐ和みらはくせんくとつけさ分る家ぐの 麁
ぐまんくおあんみんーとくくふ 正 ーからくおい
かくくぐりさ庵乃芋ちゃくいーぐくとちふト
つひてある恨を　酒をのんぐくくりとやんぐんのうさらや

やァスウくく 立 ちまくくぐんちまくくくくふ 正 おあく
さらやァうくくみふりんぐ和くていれくさかうう
こん和くりんでも。ちうどうれちわくけうやァ
みくくれくさァはみうくくさらく立ぐもが斧ちと 立
ちうちちうい米んちりわくどョウ 正 ちんみくくはぐ
りくくんぐくん様くはんのむ 揺 おうーかんくーを
んふふおあんうんちくくぐでぐんさァあんぐけちる 正
ちくち酒ちやくうつちやいておくくさこれ

さるのへもう猫むるくごらのこそ神こぞでれぐこらつ可
でむせうにうはむ〜ぜ 橘 もうりんこおろひーな
正 えんぞ〜れのまこれ小辛ふよやうおい〜んちぐよ
きこうさのらう 橘 今こうふお出すんさァか 正 さァえん
なぐあ〜ぞとやうかさんぐ〜ぐあ〜ぞおふかうと
やーやう〜とまうのぐとてさこちうぐ〜ちうぐ〜
ぐ〜ぐ〜のふをひうれらこぐう〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜 橘 ち
ぐ〜ぐ〜おを〜ぐ〜ぐ〜あんしーたのんぐうぐらぐいこ〜牛い
あんを〜ぐ〜ぐ〜えんぞぐ行のすぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜 正 か

んぐ行のすぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜な
んこうてもぐこうらぐ〜おぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜 橘 ぐ
れぐ行てもワさうぐ可ぐ可ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜ぐ〜

んれ 正 そこんかしてもこうちぶいーやとそこいるか
らそふいとーやれ五梅香ぐ 橘 ぬーやーんこうていか
んそふ」酒のあひぐぐうも 正 ようてぐかとうぐ
橘 うやぐうらーい 正 ぐうこらちくつてもそよ 橘 かふこそいか
つかのーひぐヨウト都をこそ印ぐうくとうてる 正 いくーもうんともなし
トちうと 四ぐこそ 橘 あれもおきうてへそれぐうくいのんまう
酒をおあんうんをかしいふのふトはうこうぐーひうこうくん
ぐこそいりぐ

東三

この一害八 侍を八 年は二十二うてやせぐうちていやくくちう
くうきりくくちくいろ雪かこはけぐあてうせーゆへ 会の稼
くう金もものこ代 浅ぐ 山 ぐ 初文の動南をうけ 叙文
のくこ病よ寿戸ちりいうこ邑 屋 里へ 者 ちうくれまへくう
れ沈ーき中うの巳ぐちぐーく中後せ一円武里へ者ちぐ者れ
くくく仲の町あて武侍を八をくくけそれうそ武ちひ出せ
てう色害うて上ウ行くくこう色中くちうこ青八帆紅ちおち金
東尾ふ八ぐ者ぐ者ぐ庫ぐ文小ぐくくくこ
の庫を立てくくきくくくくくあり
尾 紅やいくくちうざんせうぐんゆんくて神くんゆんー

伊十二さまざまいのも仏知のうへぶつものこれはこんやの宴
いらの旦那ら尾アイ伊そんあまあらちへのつくわるがを。
されんざこもあらどやアわれへら尾ようぶんさアかわいどい
ぶつおさざだうんもうんぞくらうにするこでもざんもそへ伊
くらうがあくつてきぶ浪人のあるぶざもあ尾イ工何ら初ふ
苦労ふうるこぶあんあんそぶらう坊くしちんもふ伊何
とわくもりのら尾イエそれでもおくいまつのをいせやまでつひに
つうひしくに剣武丁目の角でおみうけもしくあつく
もうくいもつぶおつぶき戸もうつくそうぶかくお付合ともおろ
ちやられんもあへ。浦くに綿田さんか稲んぶのうておいでうん
もぶろう伊コウもあへも名ようらくいくいくすのぶそんかを
うふくふ身のうへぶと思へら尾そうやアそへおろせんもけ
れど。おらくも一トとうりの弁でも。のろくそでぶろういろを
くらうにうもんも伊そうやアあるぶ二丁目へけぶごんに。
もあへうこれ所るらあんぶらもりもせぶぶ。まこ所へ武田もまん
ぶうでうろくもんぶろう。むせうに以つぶがいろぶや

も此さとうの門をぐうり鶏舎の二階もうんかきやどとう
ぐんかてもんかを逢てぐんぐうとけとうるーさこ茶屋の
そこいるかとを分てくれそう。我々ままでもあてやつでさ
つぐりさ神さ者のつさぐやァわんぐぷそれを今夫あろ
ちんいろくえやもんのだちが寄るハ尾だちらーいそん
かまとおつせんをかそれでもかきざさんがそんかはく
わくはごろどやァつくうとうらんでおそんをそうご伊
そうやァもんのかうげであのやうん義紀のうなる

わくやそれしてやうさもんざうぐうよびうぐりかせうが今の
分ぶんでいうちやァ身一分がうんひこうてはもか
ちてくう神くがこそこのの内まもれるうるのざそれ
ここ孫をさうしてもえそこぐるうつてもわどの
あるのんぐ尾こんかかおつせかそりれとうやまれいんでうそ
わがかれ私でも出あんをとこうさうやはきてやいこれいせん
伊こうちの私今後ちうかれぐそいちの男れこハ川はなのま
さのつこあのこと秋でかかるれまれば。おうつとかられて

うえろ。おまえ。分こそつまられく（とうちゃくれる）
分あるうところだつくれく（由志れく）成。云ひて。成
れる氣ごろうたりれく分よりはうつと（とうふ門前をうかく
さんと考弟をひる）
尾 ゆ後さごろくどこいれ（ぶこそ氣ぐさ（おくんゆを（その き）
つやようぶんさかごろて私の方うぐめうふこぶあう（くーやう）
てゆこうてくれくぷんうぐるのうんのといふぶあるゆんぶこう。
こちく成おもしれうんーなぜぶゆてお出うんぜぷんる（モシ）
らつこうぐうこうぐんぜこう。かんんんておくんうんーてア

こちら成おもさうんー。ぜもれうんせぶぶ（とうをのこうる）入こうる
おふこぶうんゆぶこぶかんあんーて物くんうんー（とひこうく
こうる）
伊 ふいこうあ（ふいあた）ぶくこぶらられれく（うちかえう陽ちゃ（ちえん
くこうれべたの（神よ（マア）ちぶりつたこうる（法也）まつておくんうんー（いりや）あんまりでぶん
をすこーのこ成こ和よ（そのやう）腹を物こうんゆこぶぶんせんお
陽（ようん）ゆふーゆ陽（ようん）なんー口こうゆかぶご成こうゆて
おりいゆこうてゆくこうぶ成ゆこうれおりくうんゆ（月中）無（あ）こうこうゆ
でこんせんゆれど。死（ぬ）魂（えん）ぷくこうゆこうて例（たぐ）をこうれ

ぞ。いくれるとやいまうまやあ死こぶんを 伊 てあ命能
だの我いのんご。あんぞといくとこ死ぬるのとまごってみさが
れ。これ。あずとよく安。山れよ家づくいのも。実八百文
の当れ人を思うてのことご。あれらのりのがついくいるやあ為
ま者も居ちあ人。まづ者一を歌の客人も猿猴人ちいひ
あごく。地義の部屋こ度ま。紀ちとそでも立てきれと
えろ。つまるあ人。者を思人があげてくれるのもうんかあろ
家の掛げどやれか。うれごりいでもあるうがマア

ちろのうちき猫さぶんであるが。そんやや客のまんし
いひ男沈の長の。本たいくやあ猫が。子さどやあるあ人し
ようく安ちまるが。とうて南さあれもうら人ゆうかふでも
なりやあ。あれ人小世猫よどうもあるあ人 尾 それごらう
ぶい。ごつもあ人さんのおろせ人ものい乳かりいも。世話よ
うろうなくれうまるうげのこごやぶんせんうあまでろ男れ
ちあまいれ上ハ成されるのうちの元
ちるとのうちられろ行時でも。きれろこんあんゆうつれ

伊 それでもあんやり乳のごさ 尾 南さ

ゑんざんをぬかるな大ぶん門の綻言もできへさへ組をむすび
めをあらうさいゆへ行く親はさんれい御を立させやいあさ
ましやんなさいゆへそれでざんそうしたはぶれかうれな
こゝでもよびもつもよびもそこいせん 伊 夫程なよりまを
ぶこゝ式ろつてくれるよん 尾 教をのぶてみく そんかゝお氣から
をゝいゝさへ 伊 をゆわへでさてきるものゆふけをの
されるとまを御ちなる。はれふまを御ゆやあゝれぶゝれ 尾
ぶゝこのゝものゝト枕のゝへよゝゝぶゝゝぶゝゝぶ

が今歌きて居る客人よ。これハやろぐ性私がこもさのんで。せまいぐろ
ゆうういせうこもひいとぐ。今をいろ〳〵ふこ式さのんぐ
も。つんぐいやといんぐさもろく。あの家とせんさこも
ぐんせんはいふ一ぢな弁さと見やこもいぐび。あんまう
ろうこうこいこうこ。ものこぐもあ歌やうぐんをぐつさら
よこぐんせう 伊ぐこうこうておれまこれるうんがいひ私
くろアようこぐ多くおれもまこ拍合てこやうトりこぐこてもく
ここ紙尾こハ
ぬんハ客こぬこ
ぬうてる史人 尾イ立
いこれようやアロ
ぬ〳〵こ。い〳〵不管ぐざ

んを 伊ぐこうこる 尾ぐんぐこれ
よせこあろこ〳〵ア容ようこ 伊客ようぐこる 尾拍でも
きろこやアん〳〵ゆ〳〵二十枚ぐ歌ハうてこれこうかあ
でぐんをこ式ぐまこあんこうんをよびもこれいを 伊こを
きぐのこを
いこぐやこあこ
くこやこさアくこ弁ひものぐぐ行をいこもあれぐ
ゆぐ不歌こ式こうぐくろうこきこ式るのあろこぐ 尾ようやア
あんこうんのこあうこやゆ。拍歌弁ろこ歌でもれこ〳〵ぐん
せんぐこうこしてもようぐんこる 伊あこでぐんアこよい〳〵ね

尾 そんぢやう今お伊 山ぶぎやうぶ
えんざせ 尾 ぢう あくう 虚空 ぢう
[illegible]
[illegible]
モシ おあさん へ [illegible]
おようあせんまし [illegible]
いれる。 尾 ちんざんを 出 ちやうふ
出 ちやうふ。 ちやうさんとらふ
んうんせん ちやうし うあへまつ。こんやきている
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
おつげうさうぶ うぶ さのくやう ほ
せんがつきゆの [illegible] 恍 [illegible]
世話 やくはうれ。 [illegible] 月 紋 [illegible] 乃
いろくか品のある 客人 の 今 成 [illegible]
[illegible] 物の [illegible] [illegible]
そうぶや。 [illegible]
やせん [illegible] 恍せん [illegible]
尾 [illegible]
[illegible]

ぎうして阮私さん状兼ねてふとみけせん 宏 さうかく
しまとつてもたとえ夜の仕事
らべ。ちんぢう内うち孔雀合えんのぎふまてんつぶ
対ふるもさんぬ。ものさんぢさんたがみ今ハつまるめ身四人
ちうさ
一ぢう死ものくしいふそえ猪でごぜ人ほせうトこえもうらげ
てつちうける
尾 アノおいまぢんとちさうぶさ浦ぢつこ成おいすん
もつてぶ赤ものもけ人トいけとうら鉄ーぶ
いまさうせぢ 宏 イエ見えれ人
いうをねうんちうせうこトト尾のぶ

おもてかつらの法の衣のすがらぐりしまれまれば
はうりもやまもおもしろ帆 紅がざ〜ちん新田
せぬ世をそとらはるさつれの繁る紅もワがるるくされると
くやしくちんを平樂の壹物をうべて帆紅み
むりあうけどまちあるの茶屋をとびいろのイガ日と身結
とうり格式をさ小冊うれべすうどといふてくりくふる
さずうるんのといりどあるべきう

○東口

尾上はちやくも日ごんあうり伊を八ゆわれうさだ
ゆうさぐやまふの庶まさ一ゆあい形笑るきぬさらてはあ
川てあるがけれがびい帆紅がひう身結ちんがものうた

おりうんちん道 初 おいうんへいどのやうでざんを。ちろ
ちもおちつをうん。〜ちん。某でもあんうん〜 尾 あんどて
おくんうんちかあんはちろびどちふざんを 初 そのちんにおつ
せんちぶ。どくもいろがワちうざんを。あのちくちらいく病はイガあ
くうちくがあるとぶちくおちるし正徒さんもおうせんしさどく
どおち氣のちれるやうにおうちうん〜 尾 ちんせうちふい
つちくおくんあんちが。イガちくうちくちるやうふちもざんせん
初 そんしちれの日ごいおうせんちぶ。広のうちのちんくちと紅

あまりしうんをしいくがつれてゐざんを出るお出ぐんれむりふ
いひうけも。うをこを附みるけの立ろうやうにあうせくれん
ワくうもやりまだやのこでさんしくうこを財にまりい
しゐんざがも出ぐんが具招さんのまんをひくれあそうて。侍
を八さんのこあく。いろくかくれいつほ考んをさけれど
且那さんのおつせんをやア尾よも人あまくれさゆぐぶ
ふそれを饌でうとしてくこぐあるりのう形濯をそよ
けれバおまぐとろじ。ふまれにまうらられくくこあくでを

さうふぐんくのぐ成お笑うんをくこ。あうをやア死のいき
るれくしてくころちやアざんせん。忙私さんあさのこれくこぐあう
て。んあ支の弟をこのころをそうまんておいくをぐんがいくけ
というくこのでざんをとおらぐかひまくこ。そのいくうけか
ちお出ゐあまをちくようくねくあうをくんくまりくまり。祇
とあうくんられくくこをひうんくて。ひうくとうりれがせて
縁氣か事であまうんをくワくあいきくいくれく
せん。おうくんうんあつけられくくくこをくこ。ぐくいくこをア

実の親のこころ苦労ふかくもんせ。ん実乃婦
さんと思つてだりんをとらつゐ行もつもおつこうん出ぎ
かるまうざんをどのごをうざんをうつゆうてもん
苦労をとをてもくんうんし。まく行ち八さんの二階ろ
しらしたもおのさんの仲ノ町へ出られうん
をんもかけのりうさんをづあまをば。やうざんさ行くん
つくつが。れん寿をいまうんしてゆまあ公つけくわ
げんを。かるをば公ぎくしらひうんをか

尾

その中よ実ふいつくくんあんを成モウ
えん
死でもつをれいをいせんかんこうあつあまがれうふきらし
いをでもあんを成ふ実見をこをいふ者れをこをぎふいを身れを多
ひーをとをぎうもうんせどふ。行をよ公をつけておくんうん
ををハモウお礼のヤ世うへごぎうひせんをくやア癖がもちつき
いをと忙ハ私さんの方へ行れがなくんやうにかりいーさ 神
りんに忙ハ私さんが公るつひを神へと斉愛と明さとをう
をへ立うんして世ーくおつせんーさぎふも合点がうん

とんせんせいはかまの侍の方は八ありやア連れの兎魂が
らおころとことざんをはんざいとふいふけのうとぬ、お宮
じやざんせんとの 尾 それでもいせ屋のおてうさんうさん
げへお侍をきあなんしーさそふざんを 初 ざいふうあう
忙松さんにおあよかりうふざんを 尾 イヤ みんな私が
うちひうとおころとことざんを侍たハうあれうあ
さらようおく云ふをとうとおくんかんしーさてもモウ
ひうかざんせうかくうとうがはうで居くうんうん

ー。うけとくおうのぐ中いとんれ松のでおざうひを はまつのとりかつて浅
がうぐとて青ものくぶまうれいとうけうの ものハかきーれまれかぶ子のやうふかあいがる ざうぐとあうとう教てやうておうん
あんしー。うとーがおうひせんあうとでいふげうとうひいせうざうで来
をつけとおうんあんしー。柳笄へきまんよあがんをあう。境屋で
うハざうぐ松のふやうておうとうんうん 尾 ハ今ハ侍をハよあうとうあうとうぐ
とれぐ云あうかうごとき安とと 性祭うけ出されてい松く侍をハさ
かをぐすうとうれいの民侍を急をとうてあのふハ出るざうとうとう
魚をとうんてやうておうとうんうんー。おまんもかあうず姿ひうんを
かのハうとうれとうんぐいうをかうとうぐんを 初 ラヤとうとうーひ

たゝ人ゝ広廊をおろれあんゝたゝそ。あろれぬゝのゝうんぞのゝう
にゝのゝいゝてゝぐゝつゝうゝうゝあゝうゝせゝんゝてゝまゝゝちゝやゝゝぐゝおゝろゝうゝんゝせゝう。そゝん
かゝゝろゝハ面白ゆゑでゝもゝちゝいゝせゝう。多紀色のゝゝさゝんの産着にて安和
ちゝまゝさゝんがゝゝろゝひゝゝた。梅川ゝたゝゝゝんのゝたゝろゝうゝハゝゝりゝゝろゝゝざゝんゝゝゝ。
大坂をゝゝゝ遠ひてゝゝゝ

はゝのふのうぐきていきんぐ(ゆ)すりひしごゝんうん
ゝ
ゝ物いハぐつゝても利ぎりの(ぎ)てん志退れいごゝ新乃
孫ちつゝもめぐりめん。金とりゝ(ゝ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)

三ぢぶどん余義なくされ申候あく名のきるかきられぬ川作
のいとまなくまつまつまつ

ありがたいりんのお情ぶんどしは老とうそう
ほうあるうへそろそろ年季の内をつくもせぬ死ぐるを
ほうまいりかりこ宮のこのあるそうこ国家かみのこ人名
こまれこうひもなくまうひほうこいこうこ帆船ふ
ふうこつくこ往あかせ語ふかりこ軍船ちこ船ちんせ
が来某でおれりこんせうかんもこもひそ伊そハ
こんそろふ要ふ教のあぐれろこそふもいのあれこ人
ぶぐこそ行ぐ外のちぐうがうこめひかこいこ別ふる

なくぐりくお話をこそおきこんやうに残あかとぐんを
おうろれやまんぐふ必頻てくれるぐ。おくこんかるる拝れ
ふの者ぐ生ともくせこまぐんやがかけて在あんれ
守りと兵隊ようけぐくりこれおこんあんくたを孔
ふこうこぐけていんれぐ所ふこいまんせこら
おくーヤいこんこうて宮くーかけて住ぐまあでお出
ちんくトこうぐこうこせうて一筆出残ぐんせうトれの上のぐまこ
ちこれありのふれ
おぐこうここて

はの山を伝ひ安をよろこん男二人あり二人の妹へ
むかへ参二人ハちねの男とうんいひろこと男ども
とりひ出形ぶ〜さでおれ〜やうう女ひとづ
らへね玉川のつゝふひ〜ろ成うてこゝろひとゝと
よびて女のおやのうしろ武川よりたてゝ見るあるないゝ
まへあてゝまうん人ふちゝんとらへいゝゝれてゝそてゐふ
二人ハらのさ成いろ今ひろハ尾のさといろうふ
いろうもあねふ見ひろ〜ひて女
行ひぬ玉ゐうげてんつの山のさ田の川ふ花のこゝろう
ゝみて山川よ高入ろね
うれ川仲の身のひめがたに諦よろうぶべきんゆ〜孫
二人の山方へ伏ゆ山をとうれ送らん
ゝ二まいゝ〜やうゝあろ松ふ
ゝを〜ゝ世ゐ〜ゝ〜ゝ〜ゝ
松のやワ〜やあのゝをひ極楽とゝ
いよ〜ゝいろ孫ぶ〜ね玉へてゐんハぶ〜ぶんよ〜ゝゐをせん出
しや珍もよ〜ふしてかゝ〜ぶ〜ひうひてゝ成つんうハぬやう
に行義とゝ〜ゝやゝゝゝ玉きゝ〜ゝ〜ゝバ一賀んの向向
とゝのむぶゝや相ゐあんへお出ゐんを孫ゝゝゝゝゝを
いろ〜ゝてつまゝ〜ゝいろゝかんうんうん〜おいゝんがお出は
んせんとゝんうふ孫いぶゐらまんを尾をつぶくれぶぶ

してつれていくるるりんぞいぢらしれ人やうに神の
えさんあようさのんでおいさうさうぷ人の云つるこや仔
やゝやぢやうとゝゝゝせびよよくいふこゝゝ成こゝやぷ
めへハ二タおやあゝくわれこゝやセウでゴ里へさて
わゝくゝぢうとさうあおるんてあるものをさん
きて拵てゐるがまゝハの種トいぢんあげいぢれしあ
ぢいさうぢをるぢ門 松ぢゝもさ
さくちハアおあらんにわうれいをハいやぐざんをト
尾こゝひぢさ
いゝれうやあうく 尾さん拵ゝわ
わゝくゝやぢゝゝもいんうら

ゴ成ゝ成仲の阿乃伊せやゝゝりつてうて帆舩さんへ
上げくゝおくゝんゝんゝしとおうさんふさのんできやこち
らのをあやんまうてうく伊を八さんふゝぢけくれ
くんゝんゝしゝいうゝゝきやゝこぢきんゝくもだまつてい
やよ芦うく新をうゝゝいきや 松ニアくゝをうとおあん
ゝんゝし 尾くゝをうおうゝゝがのゝひゝくゝきうゝいうくゝき
やよトおうゝられてきぶゝ 尾ハおひいつゝうこゝ新の帯よういのゝゝをうゝ
ゝゝゝ西ゝゝゝひてゝをあゝを仏の
ゝゝのとゝのゝうゝゝゝ三ゝびゝゝせびゝゝらゝう猫ゝ新ゝゝゝゝ 帆入 帆やゝ

はるか尾上 尾 おまへ〻〻帆 私さんぞうてこそ〻〻ハ 帆 さい
ぜんこうこそうこそ〻〻きでは 絶 のこ〻〻ひ 立 ぎ〻〻こ〻
ちねふをこそびねこそ〻〻まつこと 尾 ちつこもおまへさんに云て
うけこそだどの不さどいてあるふこられいせこ 帆
何ども義理 ぎ いこねこ分うけの今こ弟屋子
同こ〻こ 尾 サア こ勇文のこふて 帆 こてこ分うけし
て伊こ八よこそ〻せこ〻行の云ぜんあるめへが 尾 こそ
つもやりんぜんこ〻へ 帆 行 んでうこつこぞうこ〻のの

ちあるも妹 ねえ よりでかこづ 番 こ〻やこ〻こ〻こんこいあるを
あつこ〻こ〻やりへ〻めへが つき出しれこ日より 列 み
深 じん でこ〻こ〻ぐこんの 縁 えん 伊こ八こ〻ふのこ〻こふこい中
で 写 まぶ こ〻て上こ〻こ〻こ〻

ちゝはがかやぢみち　ようんていせうふあつとおもひやは
へきゑ所はあまをいこゝろにのぶでおつてうつけそれうゝ
年わどいぜんふゝゝこゝゝで中を角ざてとゝふぞう
しゝうゝして居るうちうちのやうにせいどん
きゝて放蕩がりうちをもんぞうされぐんぞからち
ぶれさとゝまめゝがうん程もせどゑようけてせとゝて
やきるんぞゝおちゃうばでれをいんくいさゝもんが
ゆゝくのゆゝんをいんゝぐつひふいやゝんゝさゝぐ

れゝがうそあうらうるゝあんまりけうゝうりまぐさ
ふううれど伊太八おつゝせう金と言て居るうら
むかうにやんさものさ 尾 そんゝ仁もうもかし
ようんてのこゝゆゝざんをうゝぐうひ 脇 ちゝれゝ
でるるゝんうかれも金おあるおいゝつゝんゝる麻
らゝゝむぐかをつひも志極ゝふ仁るのぐんも
ゑんの義仁づふゆびをきらうといゝゝこゝちち
ふうこゝゆさうそれどやゝまんそゝかゝゝぶ成成

ものかしてらい仔を八へもまねしてやうこ見へうち
ぎりをれおお宮が掏るの吳見も指をきしせね
新合あやア大でれのまつあこと見つてあさかれが
ゆう身清のお使をしさもしめへがちん実を見
やうぞりのえれ物言ぞ 尾 うぞそんあのこれしてちや
くあしておくしんあんせん仔のどろあん掏ううれしく
て夏のやうでざんそ 帆 ぞそれうきれへ仔を八ぶ門
そそそあんふそ中ぐ新へへ三さんふそ仔を八ぶ

動南の絶すぐしつくしめへがじつ義とふそうの
おやふそのしらけんふ濃をすぐしてうれしぐうふ
くうがいつそやアアくいく高雲とくそのをいきてい
えぐさの店へたりせえんへもそるねけきどあんまうの
まつ実よめでくうしがやぐのかうんエようふいへ
うかめへるやえよあつくてくんかせへぷく
よつくこ人りのみをうんどうしてかくも知でも
ゆへれがえよいつくめる堀すうはへかうすく

もうり酒せうちやくうそばゆてくぐせんとそのぞんふ
金をかれよりてところ行とちやといてるものあり
ぶてんめぐ行れを侍たち八よいつてふるひうち入う
ちまぐめぐめさのさんをかいつまてくまてうゆ
つくりあつてさぐ名人あけて入れ尾何もめーいせんとなる
なて尾侍おありがてふ尾そのとうひりんでぐせん
酒せうポイ

夫金ハ半人扇ハ問半ハ
うにぐ行ぐ大門ハ法ハ
ハあつあつして尾くくね四畳の家の陸ふれかくれ
今戸山谷の通ひか行ハ
ぬも赤可也行方のこ
酒の廓駕籠ハ竜ハ引延ハ
別の名ハ相拉やうに行根下水りうけちのうを

と南ゝ紙書表道とゝけゆく蘭舎亭れあるど。
えとゝの冊子とあゝ仏菓子すゝうぐひの粉乃
かゝ紀の也。輝も之輝もあまんどてい新ゝの下紅
猶ゝんでゝゝゝゝ之ゝ赤の亀ゝよゝゆゝゝせゝゝ。之体ゝ雖
もうでざゝんかゝる秀逸ゝ俳ゝゝれゝゝも。深香もゝゝ
ゝゝ尼ゝもひゝゝゝゝゝ。ゝ序ゝをきゝ仕ゝゝみゝゝゝゝな

鈴ゝ亭和楷

近書福内が綴ゝ劇本ハ操芝居
ゝゝゝゝ刷ひ櫻田ゝ亀本が作ゝ正本
ハ弱年枝の戯場ゝ控人ゝ流し
の小冊ハ作ゝゝゝゝ絵作者
流りでゝゝゝゝ狂合時ゝ粉ゝて
吉ゝ流ゝ不佞戯作の一風ハ武ゝ
ゝ和ゝゝゝゝ書ゝ名ゝ景

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秀保留

[illegible]

蘭奢亭主人作

青楼候言解

いろ〳〵の客よりてけいせいの表裏哀樂をえ

出来

〳〵ものがたりす

同作

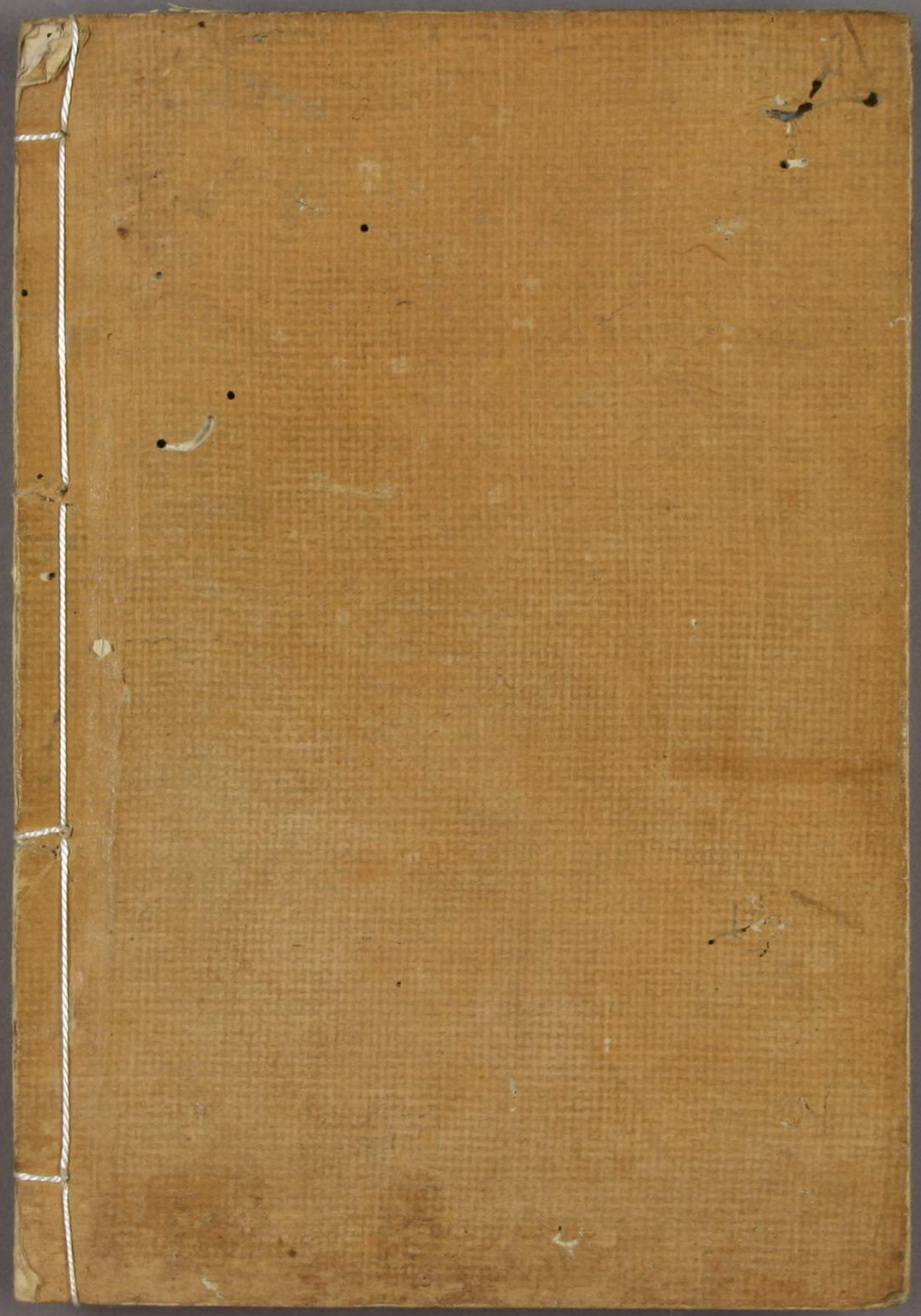
祇園會燈藏

石川客の彩色たゑ出たるとてとりまぜ

ものがたりあり

同作

茶店の娼妓

未春出来

[illegible]